

特集

全身性疾患の肺病変の画像診断

Diagnostic Imaging for pulmonary lesions related with systemic diseases

特集を企画するにあたって

原 真人

北里研究所メディカルセンター病院 小児科

Masato Hara

Department of Pediatrics, Kitasato Institute Medicalcenter Hospital

本学会雑誌の前号ではFunctional MRIが特集されました。お読みになって、最近の画像診断法の進歩の日覚ましさに非常に驚かされた会員諸兄も多かったのではないのでしょうか。画像診断に加えて臨床検査診断法もめまぐるしく進歩し、非常に専門分化したものとなってきています。日常の診療の中で個々の画像所見や検査結果に目を奪われ一喜一憂してしまうことなく、得られた画像所見や検査結果をどのように解釈し、臨床的にどう考えるべきか、すなわち病因診断、さらに治療戦略へとどのように展開していくかということが重要になります。医師になりたての頃、先輩から、病気(疾患)を診るのではなく病人(患者)を診るのだとくり返し教えられたことをよく思い出します。また、近年いたるところで強調されているインフォームドコンセントという言葉を見たり聞いたりする度に、分化と総合のバランスが非常に大切であることを思い知らされます。

今回は、臓器別の分類と違った、肺という臓

器を軸とした横断的な視点から肺病変を捉えてみたいと考え、「全身性疾患の肺病変の画像診断」という特集を組むことにしました。そして、テーマとして、膠原病の肺病変、血液疾患の肺病変、腎疾患の肺病変、固形腫瘍と肺病変、GVHDと気道・肺病変の5つを選びました。各々について経験の豊富な先生方に、臨床に則した立場から全身性疾患の合併症としての肺病変あるいは治療経過中に留意すべき肺病変の画像診断について、執筆をお願いしました。執筆者の先生方には大変広範囲で漠然としたテーマにも関わらずご快諾いただき、読みごたえのある、わかりやすい内容にいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。画像写真も数多く、外来や病棟の本棚に置いて時々参考にする本となることを期待しております。会員諸兄には、是非ご一読いただき、これからの臨床にお役立ていただきたいと思っています。